

OpticStudio 19.4 Service Pack 1 には以下の修正と機能追加が含まれます。

シーケンシャルモードでの解析と面

- **[グリッドディストーション] (Grid Distortion) 解析** – SMIA-TV ディストーションの値がディストーションプロットの下で確認できるようになりました。このことにより、テキストデータをスクロールせずに、SMIA-TV ディストーションが確認できます (図 1 参照)。

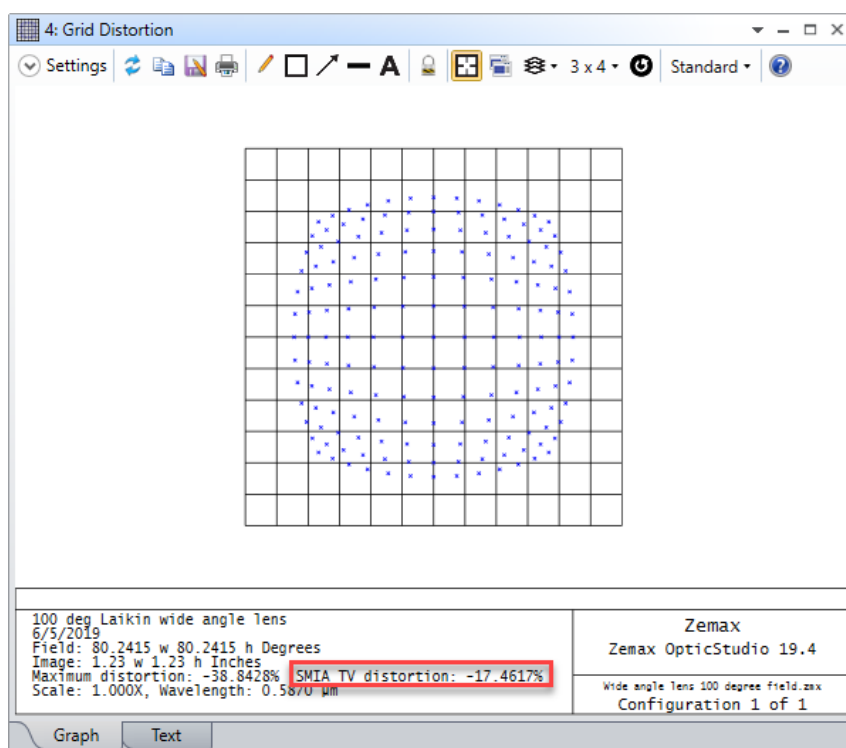


図 1. グリッドディストーション解析のアップデート

- **[グリッド位相] (Grid Phase) 面** – OpticStudio 19.4 にて追加された [新機能の試行] (Feature Experiments) 中のグリッド最適化の更新により、光線追跡エラーがグリッド位相面で発生していました。このバグが修正されたことで、グリッド位相面でも正しく光線追跡ができるようになりました。

プログラミング

- **[ディテクタビューア] (Detector Viewer)** – COM 言語 (Python と C++) 環境の ZOS-API で MaxSpatialFrequency プロパティを使用するとき、値が 1 だけシフトしなくなりました。OpticStudio 19.4 では、ディテクタビューアを使用する COM 言語で記述された ZOS-API コードは、新しいテンプレートに更新する必要があります。